

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年10月9日

予報期間：10月11日～11月10日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

東・西日本と沖縄・奄美では、向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。一方、北日本では、期間の前半はかなり低くなる所があるでしょう。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、期間の前半は天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

北日本太平洋側と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東日本と西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	30:40:30	40:40:20 40:40:20	40:30:30 30:30:40	
東日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	30:30:40 20:40:40	40:40:20 40:40:20	
西日本	日本海側 太平洋側	10:20:70	30:30:40 20:40:40	40:30:30 40:40:20	
沖縄・奄美		10:20:70	20:40:40	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	20:50:30	60:30:10	20:30:50
東日本	10:10:80	20:40:40	10:30:60
西日本	10:10:80	10:30:60	10:30:60
沖縄・奄美	10:10:80	10:20:70	10:30:60

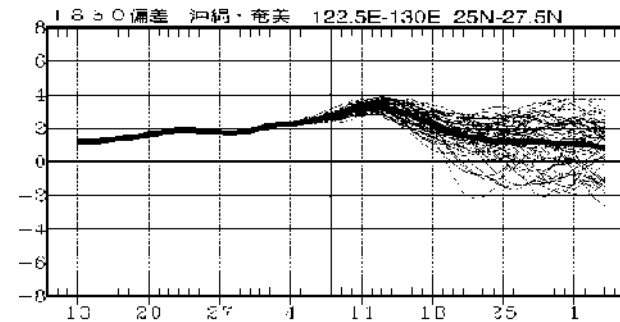
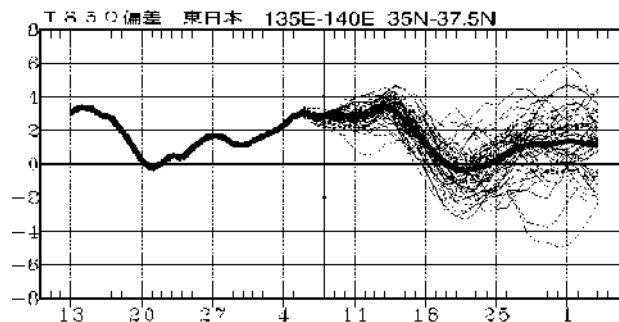
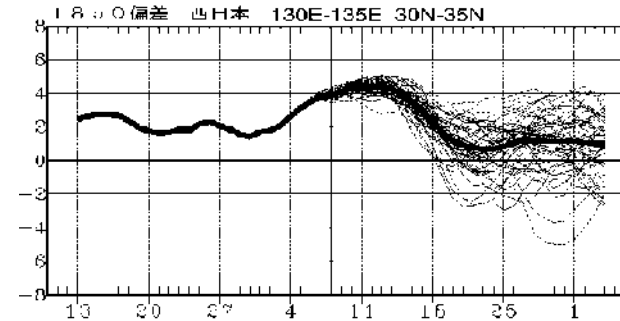
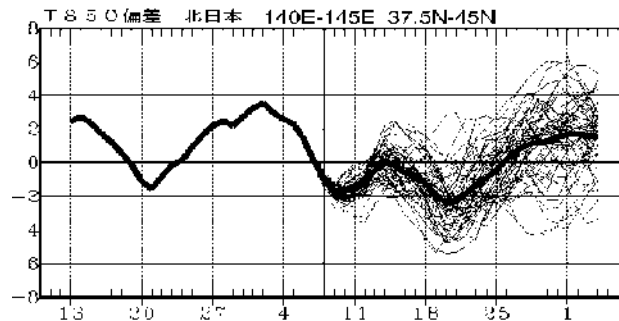
全般1か月予報のポイント

- ・東・西日本では6月中旬以降、沖縄・奄美では8月上旬以降、暖かい空気に覆われ、気温の高い状態が続いています。向こう1か月の気温も、暖かい空気に覆われやすいため高い状態が続き、期間の前半はかなり高くなる見込みです。一方、北日本では、期間の前半は寒気の影響でかなり低くなる所があるでしょう。
- ・低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年並か多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、東日本と西日本太平洋側では平年並か少ないでしょう。
- ・北日本では、低気圧や前線の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か少ないでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(10/11～10/17)	2週目(10/18～10/24)	3～4週目(10/25～11/7)
想定される天候(気温)	東・西日本と沖縄・奄美では暖かい空気に覆われやすいため、かなり高いでしょう。 一方、北日本では平年並でしょう。	西日本と沖縄・奄美では暖かい空気に覆われやすいため、かなり高いでしょう。 一方、北日本では寒気の影響で低いでしょう。	暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高いでしょう。
根拠	偏西風はやや北偏し強く流れ、北・東日本では気温の南北の傾きが大きい(P.8,P.12参照)	偏西風が北偏して流れる。 一方、北海道付近を中心に大陸からの高気圧の張り出しに伴う寒気の影響を受けやすい。(P.8,P.12参照)	偏西風が北偏して流れる。(P.8,P.12参照)

850hPa気温 偏差時系列

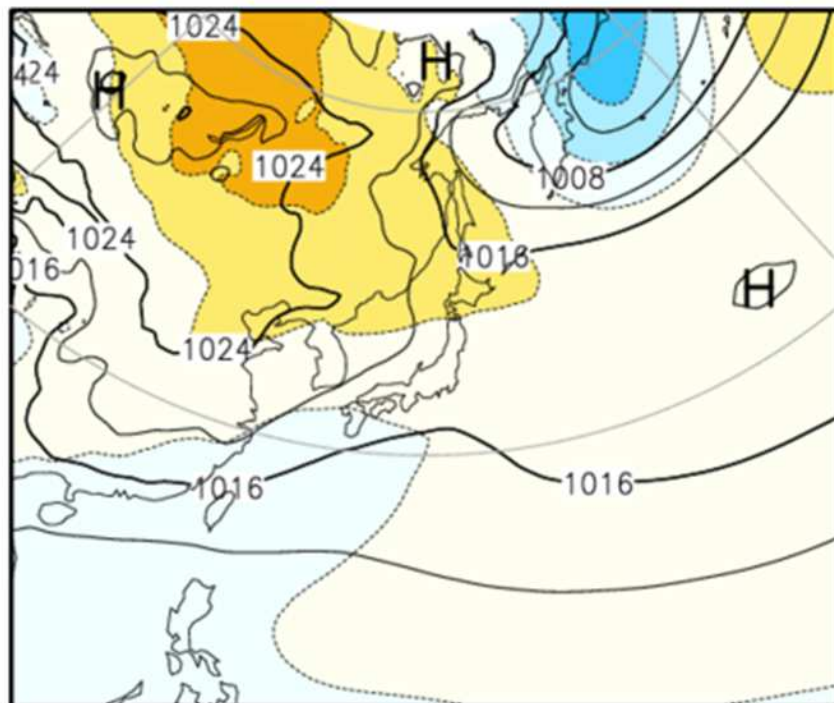


各週における天候のポイント(天気)

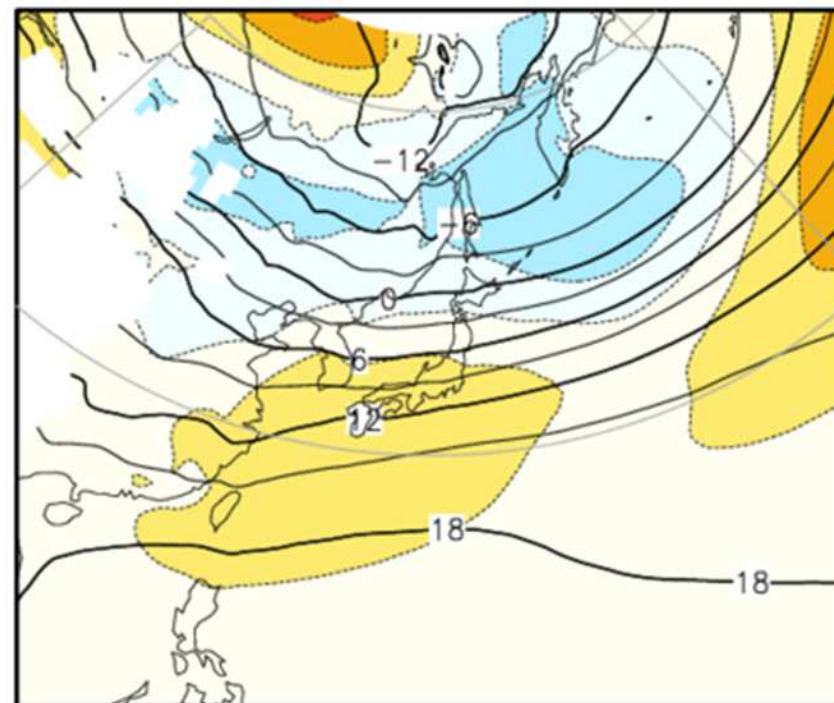
	1週目(10/11～10/17)	2週目(10/18～10/24)	3～4週目(10/25～11/7)
想定される 天候 (天気)	北日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるとでしょう。 北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	北・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、寒気の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。 北日本太平洋側と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。 沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるとでしょう。	北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。 北・東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 東日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるとでしょう。
根拠	大陸の高気圧が北日本付近に張り出すほか、日本の南海上に太平洋高気圧があり、日本付近は気圧の谷。東・西日本日本海側では低気圧や前線の影響を、東・西日本太平洋側では、前線や高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受ける時期がある。 (P.10-13参照)	大陸の高気圧が1週目より南東に張り出す。北日本では大陸の高気圧の張り出しに伴う寒気の影響を受ける時期がある。東日本日本海側では寒気の影響を西日本太平洋側では、低気圧や前線及び湿った空気の影響を受ける時期がある (P.10-13参照)	季節進行に伴い、太平洋高気圧はさらに東に後退するが、平年に比べ高気圧の後退が遅いことから、前線は本州南岸付近に予想される。このため、東・西日本太平洋側を中心に、前線や高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受ける時期がある。(P.10-13参照)

数値予報モデルからみる全般1か月予報のポイント

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

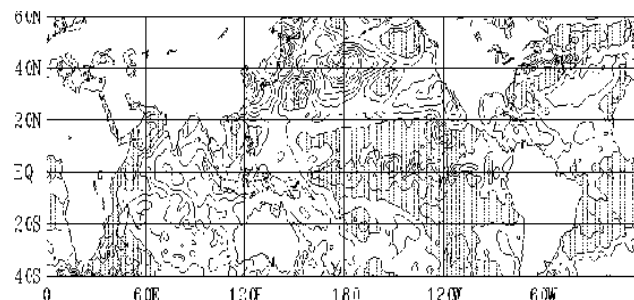


1か月平均の海面気圧(左図)は、大陸から日本の東にかけて高気圧が予想され、日本の南東では太平洋高気圧の東への後退が遅い状況が続くでしょう。一方、華中から日本の南にかけては、気圧の谷が予測されています。このため、北日本では低気圧や前線の影響を受けにくい時期があるほか、東日本、西日本太平洋側と沖縄・奄美では、低気圧や前線及び湿った空気の影響を受ける時期があるでしょう。

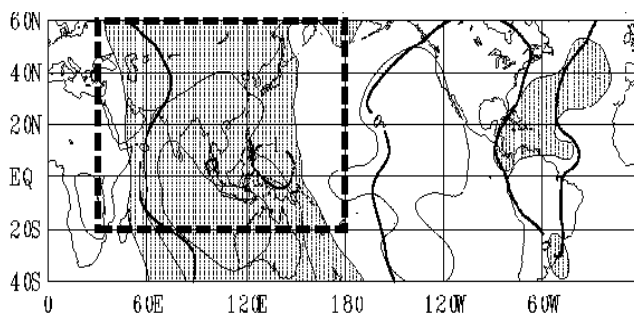
上空約1500mの気温(右図)は、東・西日本と沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすいため、平年より高いと予測されています。一方、モンゴルからカムチャツカ半島付近では平年より低いと予測され、北海道付近では寒気の影響を受ける時期があるでしょう。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

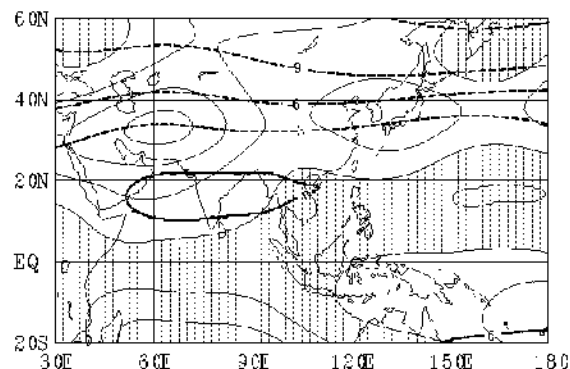
SST偏差



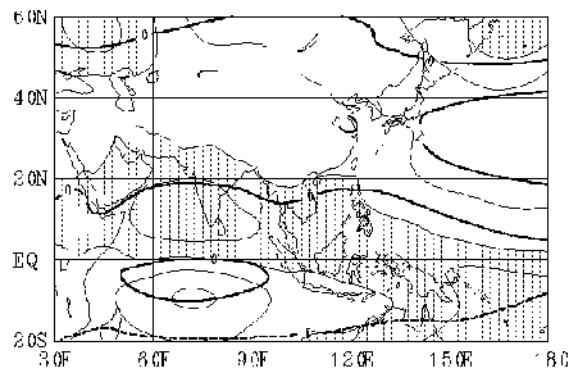
200hPa速度ポテンシャル



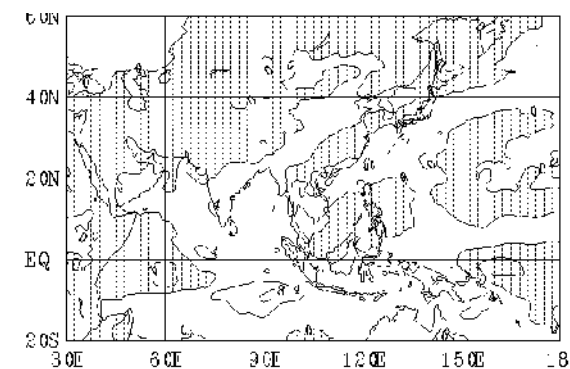
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量



SST偏差は、ラニーニャ現象的かつ負のインド洋ダイポールモード的な分布。また、東シナ海から北太平洋中緯度帯で広く強い正偏差。

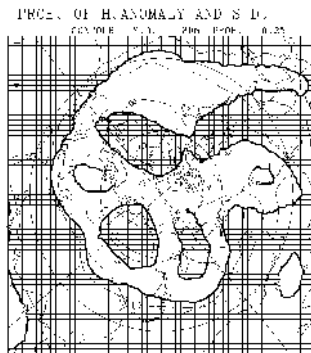
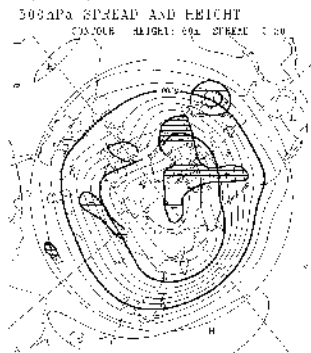
200hPa速度ポテンシャルは、SST偏差に関連し、インドネシア付近を中心に発散偏差、太平洋熱帯域の中部で収束偏差。

200hPa流線関数は、亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播の影響で中東付近に高気圧性循環偏差、日本付近でも高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、対流活動に関連しインド洋から南シナ海付近にかけて低気圧性循環偏差。一方、日本の南東海上では高気圧性循環偏差。

降水量は、インドシナ半島から本州南岸付近にかけて多雨偏差。日本付近では、下層の循環の特徴から東日本や西日本太平洋側で南からの暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場

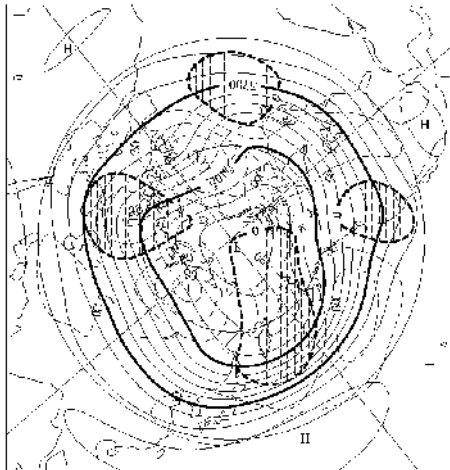


500hPa高度は、本州付近を中心に正偏差の一方、東シベリアからアラスカにかけて負偏差。また、日本付近は正偏差で、北海道付近を除いて正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

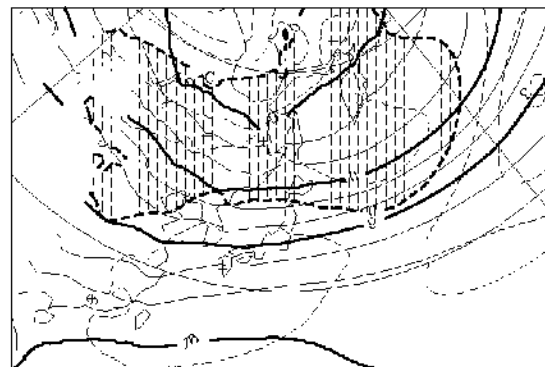
850hPa気温は、沖縄・奄美付近に正偏差の中心があり、日本付近では沖縄・奄美から東日本にかけて正偏差。一方、北海道付近では負偏差。

海面気圧は、大陸から日本の東にかけて気圧が平年より高い。一方、華中から日本の南にかけては気圧の谷。このため、北日本では低気圧や前線の影響を受けにくい時期があるほか、東日本、西日本太平洋側と沖縄・奄美では、低気圧や前線及び湿った空気の影響を受ける時期がある。また、北日本では、勢力の強い大陸からの高気圧の張り出しに伴う寒気の影響を受ける時期がある。

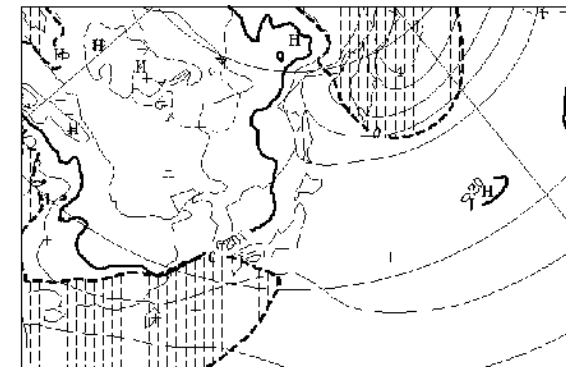
500hPa高度



850hPa気温

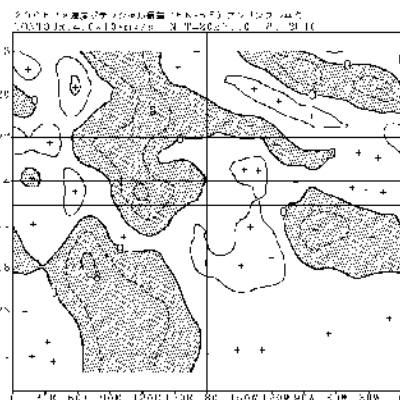


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列

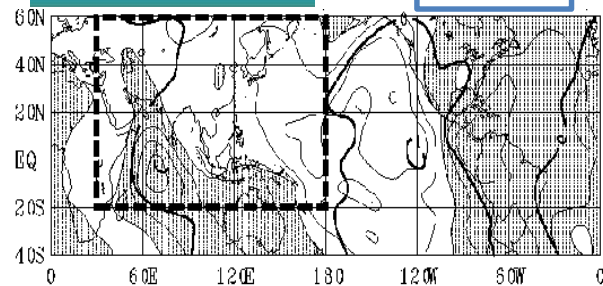


200hPa速度ポテンシャルは、インド洋で発散偏差、太平洋熱帯域の中部では収束偏差が持続する。

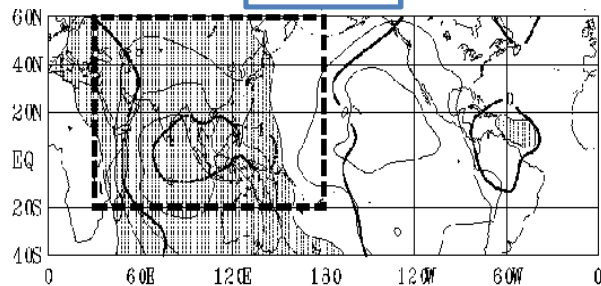
降水量は、1週目はインド洋東部で少雨偏差だが、その後は次第に多雨偏差となる。日本付近では、1週目は、北海道付近で少雨偏差の一方、東日本日本海側と沖縄・奄美付近で多雨偏差、2週目以降は本州から沖縄・奄美付近で多雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

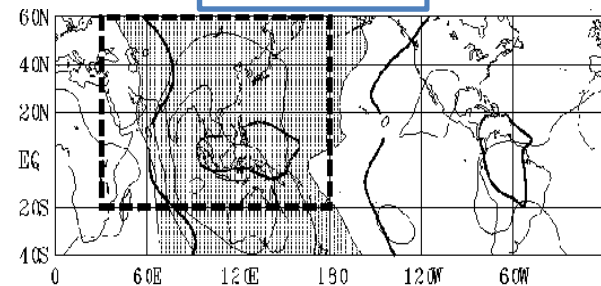
1週目



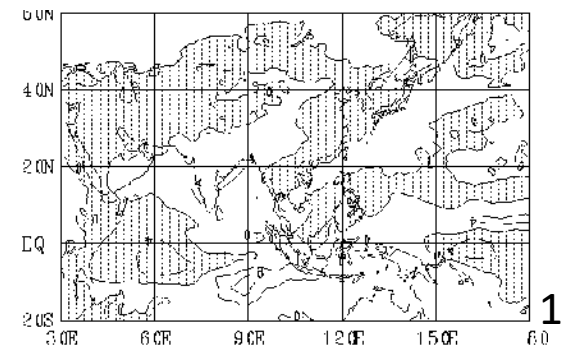
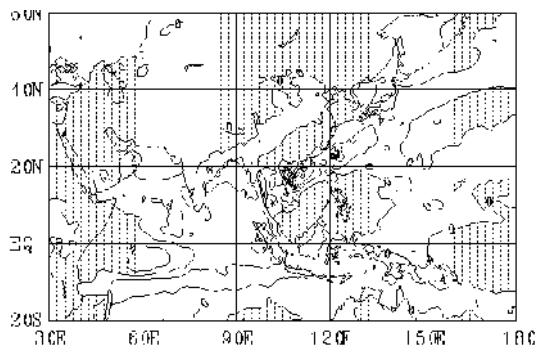
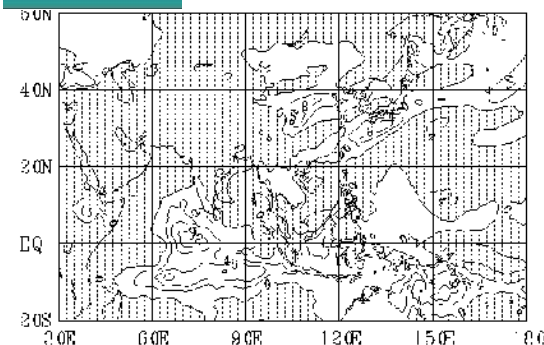
2週目



3~4週目



降水量



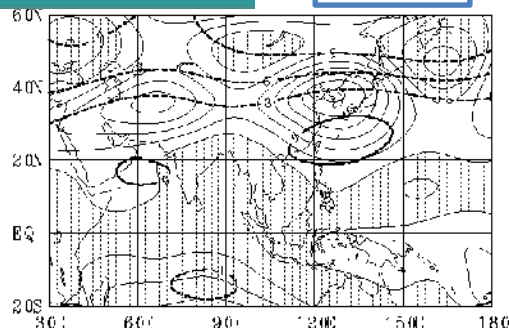
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、1週目は、亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播や寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播の影響が加わり、朝鮮半島付近を中心に日本付近は広く高気圧性循環偏差に覆われる。2週目以降は、日本付近は波束伝播の影響が弱くなるものの、高気圧性循環偏差が持続する予測。

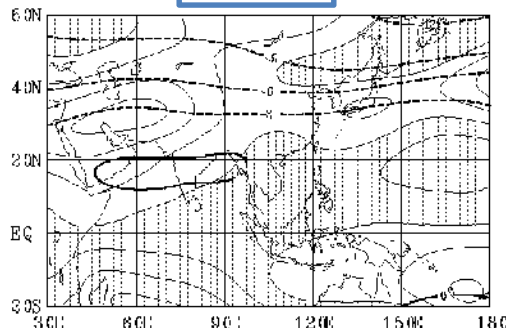
850hPa流線関数は、1週目は、日本の南を中心に高気圧性循環偏差。2週目以降は、フィリピン付近を中心に低気圧性循環偏差。一方、日本の南東では高気圧性循環偏差が持続する予測。

200hPa流線関数

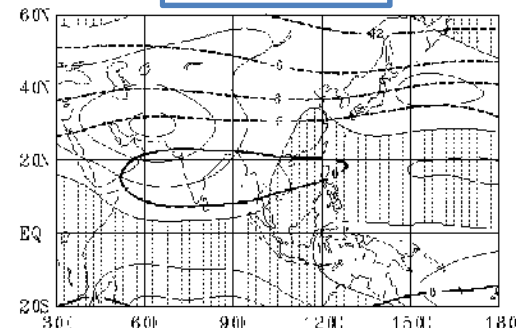
1週目



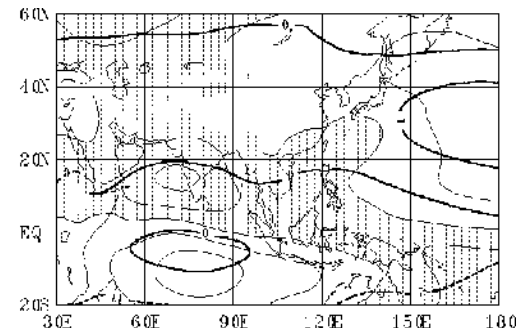
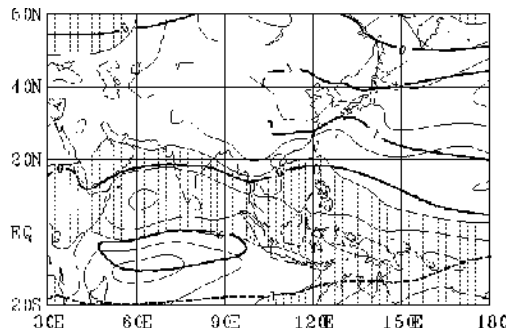
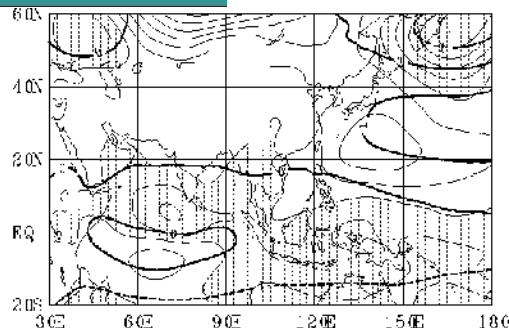
2週目



3~4週目



850hPa流線関数



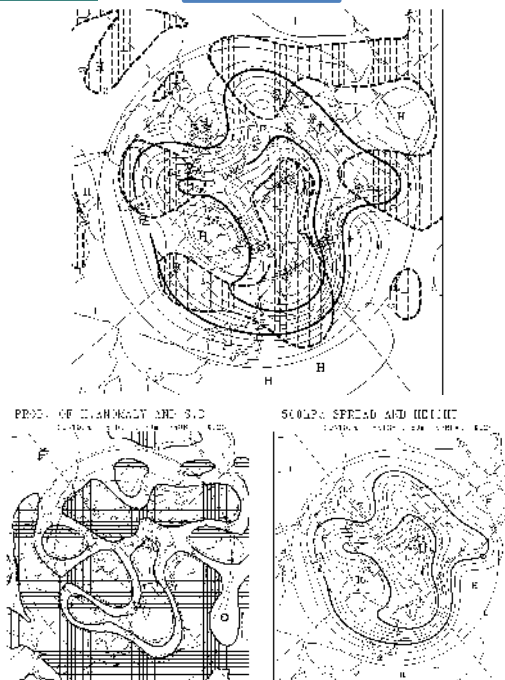
予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

500hPa高度は、日本付近は、期間前半の北海道付近を除いて、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。1週目は、亜熱帯ジェット気流と寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播が明瞭で、西シベリア付近でリッジが発達し、2週目にかけてもリッジが持続する。

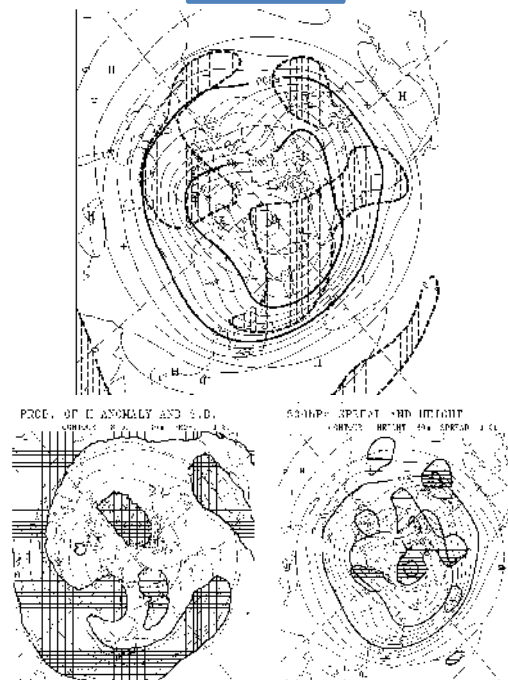
1週目は、亜熱帯ジェット気流と寒帯前線ジェット気流沿いの波列の影響で正偏差の中心は朝鮮半島付近にある一方、北海道付近で負偏差。2週目は、バイカル湖付近を中心に正偏差の一方、北海道付近で負偏差が持続。3～4週目は、日本付近ではおおむね正偏差。ただし、2週目は西シベリア付近にスプレッドの大きい所があり、不確実性があることに留意。

500hPa高度

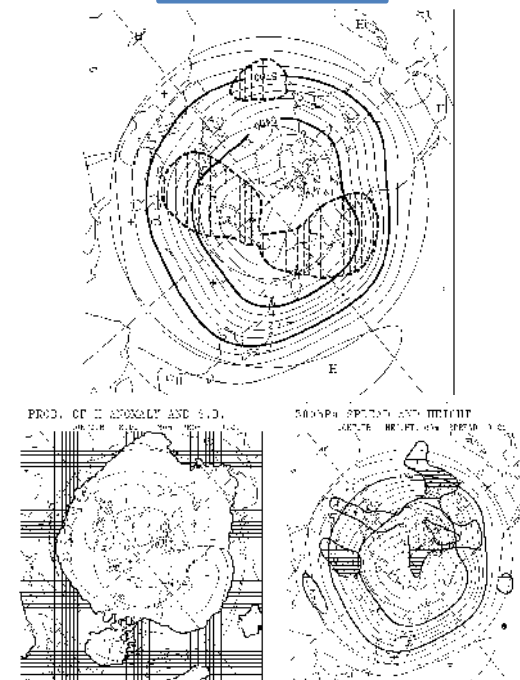
1週目



2週目



3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、西日本と沖縄・奄美では、期間を通して正偏差に覆われる一方、北海道付近では、期間の前半は負偏差で、寒気の影響を受ける時期がある。

海面気圧は、大陸の高気圧は、1週目に西シベリアのリッジの影響で強まり、2週目にかけて南東進する。

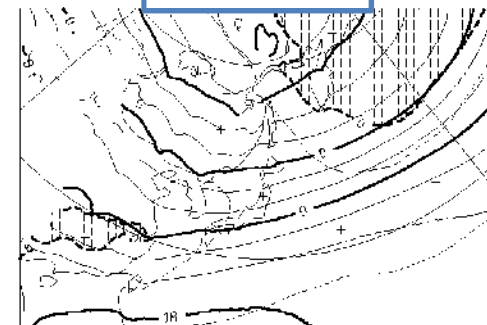
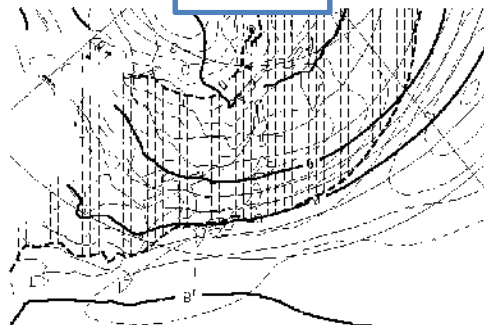
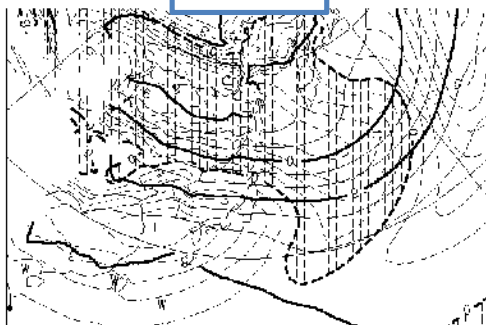
1週目は、寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播の影響で大陸の高気圧が強い一方、日本付近で気圧の谷となり、東北地方以南では低気圧や前線及び湿った空気の影響を受ける時期がある。一方、北海道地方を中心に低気圧や前線の影響を受けにくい。2週目は、大陸にある優勢な高気圧が日本海付近に張り出すほか、日本の東海上に太平洋高気圧があり、日本付近は気圧の谷。北日本日本海側では寒気の影響を、また、東日本と西日本太平洋側を中心に低気圧や前線及び湿った空気の影響を受ける時期がある。3～4週目は、日本付近では華北付近の高気圧が強い一方、本州南岸から沖縄・奄美では気圧の谷となり、前線や湿った空気を受ける時期がある見込み。

1週目

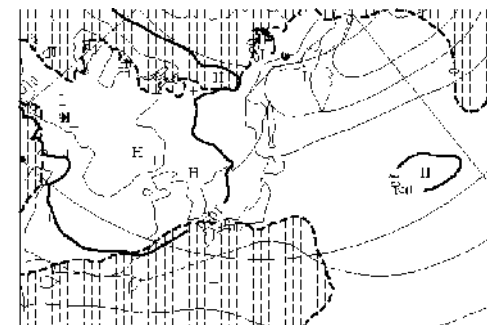
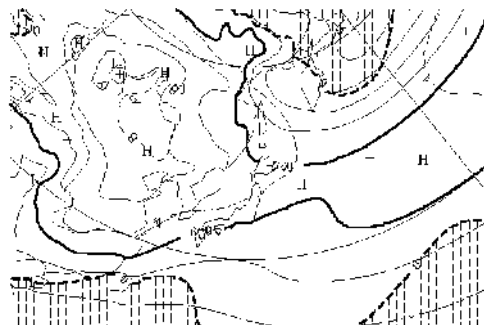
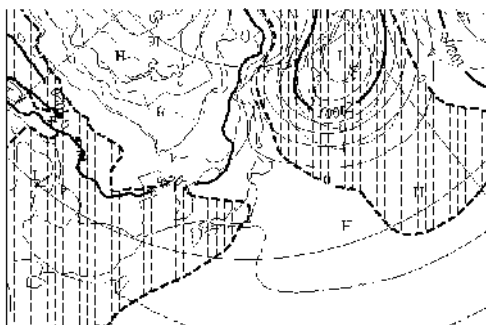
2週目

3～4週目

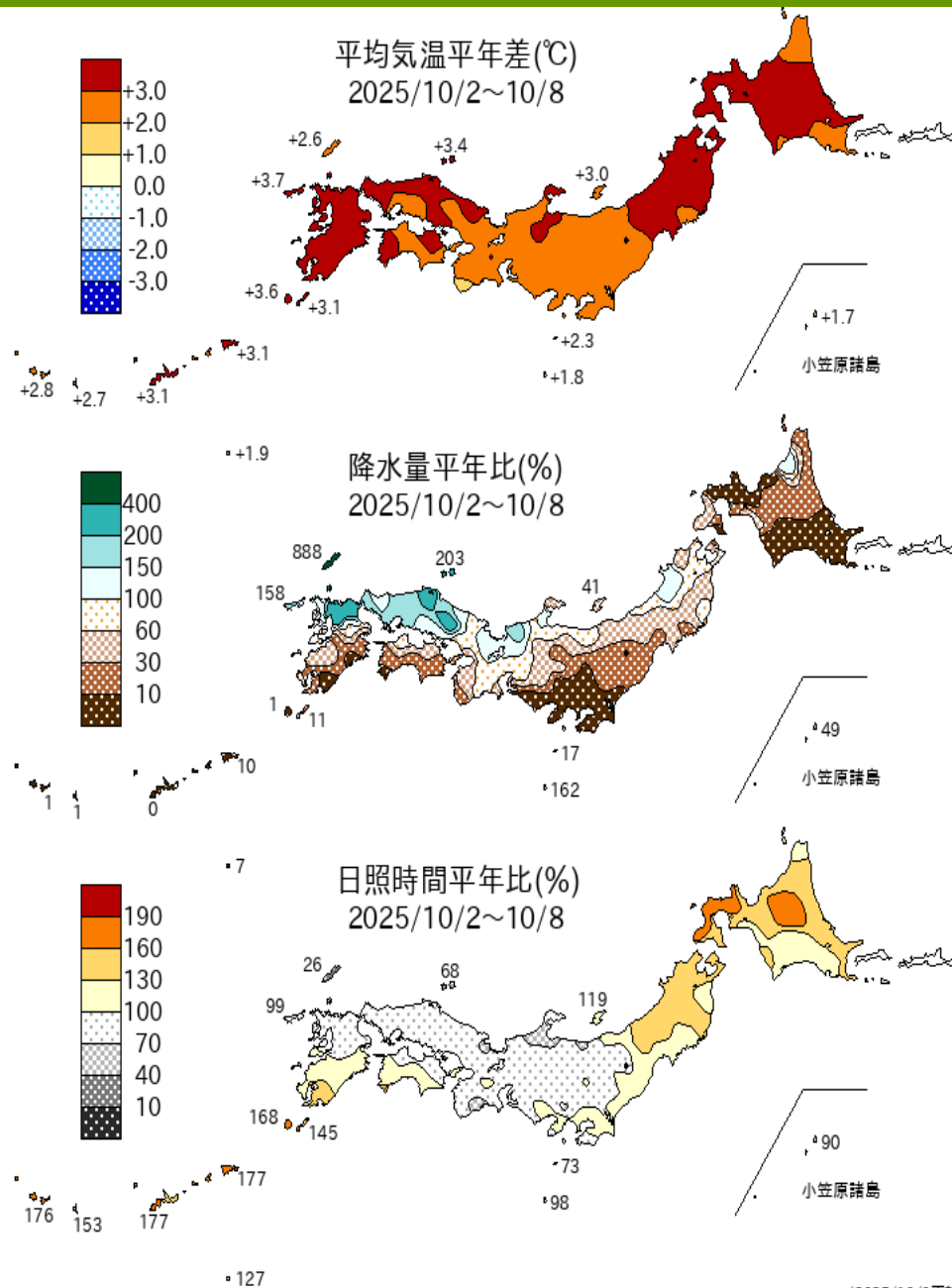
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(10月2日~10月8日)は、北・東・西日本では、低気圧や前線と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。降水量は、移動性高気圧に覆われやすかった北日本、東日本太平洋側(八丈島を除く)と太平洋高気圧に覆われやすかった沖縄・奄美では平年を大きく下回りました。一方、低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすかった西日本日本海側では平年を上回り、3日は長崎県の厳原で日降水量278.0mmを観測し、日降水量の多い方からの10月の極値となりました。また、日照時間は北日本と沖縄・奄美では平年を上回りましたが、前線や湿った空気の影響を受けやすかった西日本日本海側を中心に平年を下回りました。気温は、暖かい空気に覆われるとともに、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだ時期もあり、全国的に平年を大きく上回りました。